

我癖錄

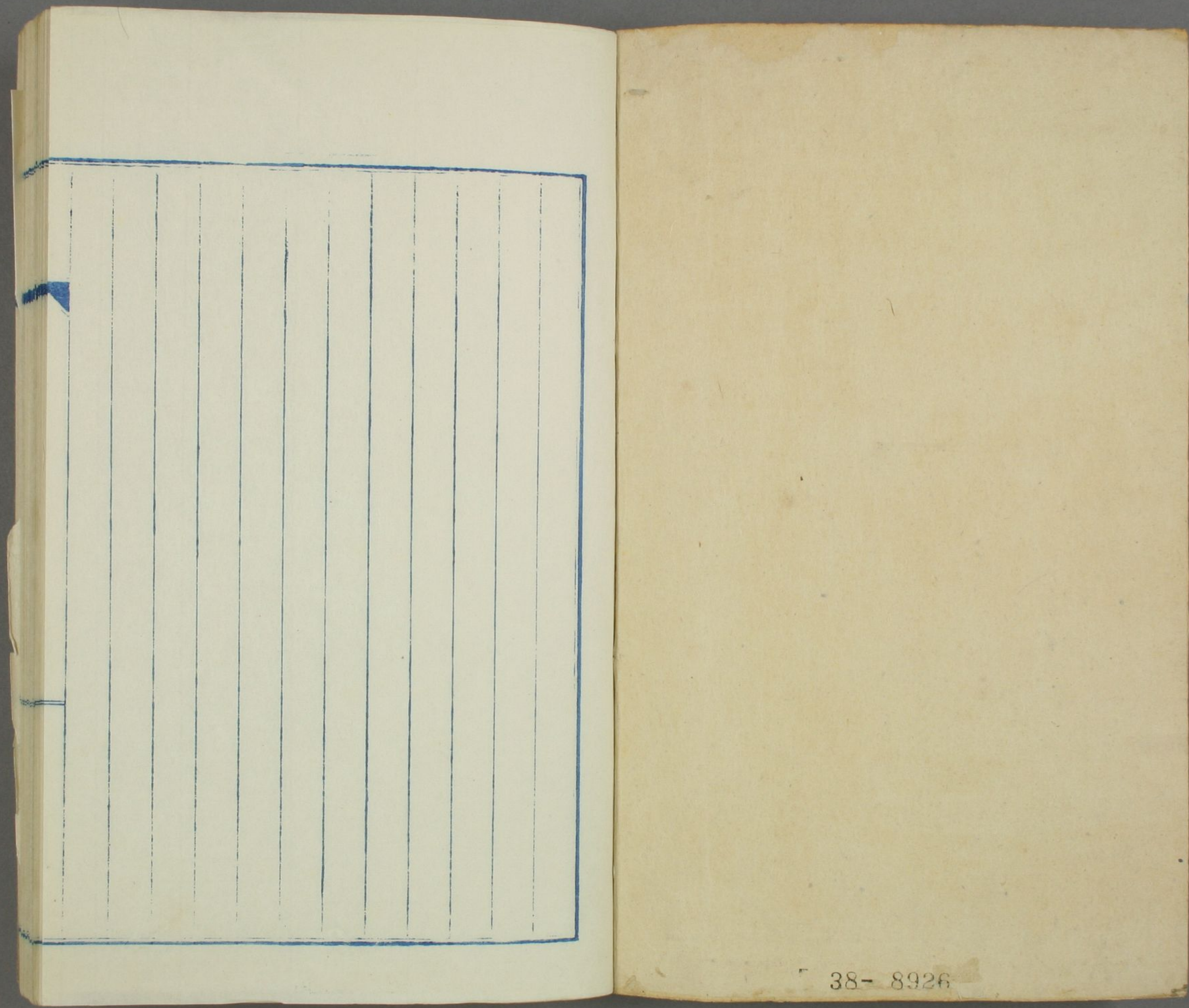
貳

根本(易)の(上)巻

明治廿五年十月

特別
14
1919
127





38- 8926

◎各代所用畫絹

○古絹

古畫絹

糸兼ニシテ厚ニ破ルル所必ス 魚口ノ如
ク連ニ三四糸アリ直列成セサレナリ直列衣
スルモノハ偽ナリ

○唐絹

唐絹

唐初マテ之ヲ用ウ張僧繇録 絹五
本等之ヲ用ウ

練絹

搗熟スルモノ銀板ノ如シ故ニ人物精細

筆ニ入ル周防、韓幹以後之ヲ用ウ

○南唐絹

兼絹

兼雙ノ畫絹此時より漸ク出ツ

○五代絹

分張絹

極メテ麤ニシテ布ノ如シ除熙多ク之ヲ用ウ

○宋絹

院絹

勻淨厚密ナリ畫院多ク之レヲ用ウ故ニ名アリ

獨梭絹

細密紙ノ如シ潤サ七八人ニ至ル但シ是稀薄ナルモノ院絹ニアラサルナリ名ツケテ澄心堂絹ト云フ

○元絹

元絹

宋絹ニ類ス

獨梭絹

衣州ヨリ出ツ

宓椒絹

極メテ勻淨吾未魏塘宓家ヨリ出ヌ故ニ名ツク趙子昂盛子昭、王冕水苧多ク之レヲ用ウ

○明絹

明絹

内府ノモノ宋絹ノ如シ

◎各代所用書畫紙

○古代紙

網紙、穀紙、麻紙

三紙徒其名ヲ存スル

ノミ其色所及、至テハ元ヨリ知リ得可カラ
カルナリ(日本紀ニ穀紙、麻紙、秦皮紙等ノ
名見ユ、穀紙ト云フハ越前雞卵紙ニ似テ、
理ノ堅ニアル厚滑ナル紙ナリ此越前雞卵紙
ハ麻紙ニ擬シテ製シタルモノナレハ穀麻質相似
タルモノナルヘシ天平寶字三年一雞寶郎
ガ書經ノ末ニ用穀紙卅一張トアリ其他古代

○晋紙

子色紙

繭紙

側面紙

横簾ヲ用井テ告

ノ行書等ニハ白麻紙、黄麻紙等アリテ
今尚現存ス)

ル其紋横其色髪松ニシテ厚シコレ則北紙ナ
リ

竹紙

堅簾ヲ用井テ作ル故ニ其紋堅コレヲ
南紙ト云フ晋ニ至ル真然多クハ是レ會
稽ノ堅紋竹紙ナリ

側理紙

一名水苔紙、苔ヲ以テコレヲ造ル故ニ云
フ

松皮紙 日本ニ産ス

○秦紙

麝香紙 一名香皮紙微褐色紋魚子ノ如ク極

ニ香ハシク而シテ堅韌ナリ

竹紙、楮皮紙 共ニ江南ヨリ出ダス

黥歛凝霜紙 稻稈紙 浙中ヨリ出ダス

笈皮紙 扶桑國ニ産ス

○吳紙

由拳紙

○唐紙

硬黃紙

唐人黃檗ヲ以テ之レヲ染ム其色蠶ヲ庭ケ

カガナリ其質漿ノ如ク光澤アリ而シテ堅滑

用井テ以テ経ヲ書ス

薛濤箋 元和ノ初蜀妓薛洪度紙ヲ以テ葉トナス

小箋子色ヲ製ス各々テ薛濤箋ト云フ

亦蜀箋ト名ツク

布紙、藤角紙、麻紙 黃白ニ色アリ

桑皮紙 桑根紙

鷄林紙

莢海珠塵ニ美濃紙ノコトラヲ苔紙ト書リ

青紙

卯紙

一名卯品、是滑鏡ノ如ク筆紙面ニ至ルニ
是滑善ク書クモノニ非サレハ敢テ用井ス
長二丈潤一丈厚、縐布ノ如ク數重カ
鄴陽白 長サ匹練ノ如シ

會府紙

鄴陽白

○南唐紙

澄心堂紙

曹卯膜ノ如ク空潔玉ノ如シ細薄光潤
一時ノ甲トナス

○宋紙

澄心堂紙

宋ノ諸名公文字ヲ寫ス李伯時ト及テ大
却此紙ヲ用ウ

烏絲欄

毫州産、思道ヲ織リ成スモノ
歙紙 徽州府歙縣ノ産、先滑、甚白、爰ス
可シ

歙紙

黃白經箋 揭用ニテ之レヲ用ウ可シ

碧雲春拊箋

龍鳳箋

團花箋

金花箋

匹紙 長三丈、ヨリ五丈ニ至ル

白藤紙

觀音抄簾紙

幽白紙

日蘭紙

竹紙

大箋紙

彩色粉箋 其色光滑東坡山谷之シラ用并之画

ラ作ノ字ヲラ字ス

〇元紙

彩色粉箋

蠟箋

黄箋

花箋

羅紋箋 以上皆紹興ヨリ出ツ

十一(山形屋製)

白藤紙

親音紙

清江紙

以上皆江西ヨリ産ス趙松雪祝枝
山張伯雨、解于杞カ画多クハ此紙
ヲ用ウ

鉛山紙

常山紙

英山紙

上雲紙

白箋

以上皆之レラ百廿ニ傳フヘキモノ
堅厚板ノ如ク表面研光アリ潔白
玉ノ如シ

次瓦青紙

高麗蘭紙

皮紙

新安土箋

禪箋

此細ニシテ堅軟裁テ小幅トナス
粉造ラ用井ス荆川連紙ノ堅白研
先アルヲ以テ蠟ヲ用井テ各物ノ細
花ヲ打出ス古雅可愛ス可シ

○明紙

連紙七

觀音紙

永樂中江南西山ニ官局ヲ四五キ
紙ヲ造ル最モ厚大ニシテ好キモノヲ
連七紙ト云ヒ觀音紙ト云フ

十一(山形屋製)

奏本紙

江西鉛山ヨリ出カス(毛息奏本ナルモノ
ナル可シ謝在杭ヲ且毛邊之用上自奏
牘下至東帖短札編於天下稍濕即
腐稍脆即蠹紙中亦一方品而世用之
不改若光滑便於書也ト云フモノニシテ
本邦スヘテ唐紙ト唱テ書畫ノ料ト
充ルモノ即是ナリ古ク本邦ニ渡リ又
ルモノハ先滑便於書ト云フ可ケレトモ
現時ノモノハ脆質粗厚甚ク上品ナラ
ズ

榜紙

浙ノ常山ヨリ出ツ又直款、廬州、
英山ヨリモ産出ス

小箋紙 江西臨川ヨリ産出ス

大箋紙 浙ノ上雲ヨリ産出ス

洒金五色粉箋

五色大簾箋

洒金箋 以上三種大内用ノ紙ニシテ細密アリ

白箋

印金五色花箋 段素ノ如ク堅靱ニ交トスヘシ

磁青紙 吳中ヨリ出ツルヲ佳トナス

無紋洒金箋紙 粉造ヲ用キル荆川連紙ノ背厚ナリ研

松江潭箋 先アソノヲ以テ造成ス色白クシテ綾ノ

如ク堅靱帛ノ如ク用井テ以テ書字

十一(山形屋製)

又湯墨を愛ス可シコレ支那ノナキ所ノ

モノ高麗ノ特産ナリ(姓古本邦ニテ添

キ出シタル紙ナリト云フ尾張岡田挺之

鄭注孝經ヲ校シテ是ヲ越前ノ奉

書紙ト摺シテ産出シ遣シタルヲ鮑廷

傳知不足高麗ノ書ノ中ニ収テ蘭紙ト

摺リタル由錢佃ノ序ニ書ツリ美之カ

蘭亭ヲ書セシモ我國ノ奉書トハ云

ハ難ケレバ其似タルモノナリ可シ

近世ノ朝鮮蘭紙ナト稱フル五彩ノ

紙モ奉書紙ト似テ堅靱兼理ル

莖滑ノ紙トシハ古我國ノ製衣ニ似

へしモノナシカ者ニサ爾紙アリ宋ニ日
蘭紙アリ元ニ高麗蘭紙アリ皆コ
ノ同物日蘭紙ハ日本ヲ指シタルモノ
ナラン

○清紙

鏡光紙

清初ノ良紙

綿料白紙

今ノ中畫紙大ノモノニシテ堅緻光
瑩滑墨極メテヨク墨汁紙ニ沁セ
ス惜ケラクル雨滋アリテ全ク用スヘカラ
ス現今ノモノハ墨沁シテ畫ナドニハ
禁セスハ用スヘカラス

扇料白紙

光滑墨色ヲ淡スレニ短ニシテ書
寫ラス

大擘紙

一程ハ長一丈餘闊七尺許一程ハ
長六尺餘闊四尺許六尺匹ナリ
云モノカ

川連紙

四川ヨリ出ツ貴賤皆ニ用井ル日
用ノ紙ナリ

雪濤紙

又畫沁紙ト云フ古洒ノ古畫紙
ニ及ラス

扇雙紙

雪濤ノ如キモノニ枚ヲ合セ申タ
モノニシテ上乘ノモノニアラス

石を削して... 城跡... 異俗... 城址... 久未邦武... 山形屋製

城を中一壘石を... 城址... 又或る説... 山形屋製

字状あり、及今其後の筆跡ありとも其の地
在の字を以つて其の處を以て字案するは
うきくハ修後ありは之を字案とすするは
海より其の字を修後とすけんがその字の風習
も亦その字を修後とすけんがその字の風習
其と異なりするは其の字を修後とすけん
と此の字跡を以つて其の地を以て字案は亦
修後の修する字とす

○浄瑠璃本の草集

その本の板ありて浄瑠璃本と草集してその
板周恒なりとす其の字を以て字案は亦

彼を没けんとす其の意昔を一板して其の
しと一板に漢の字ありて今とて同様の
取味を以てしとす其の字を以て字案は亦
其を没けんとす其の意昔を一板して其の
久まらばその字を以て字案は亦
とつとありけりは漢の字ありて今とて同様の
その字を以て字案は亦
必死あり又之を以て字案は亦
七之を以て字案は亦
其の字を以て字案は亦
ひあり、板周の字ありて今とて同様の
その字を以て字案は亦

一と定ししはるる守りたるの事うらむるに
犬を殺しし事ありしに
と傳ふ事ありしに
人々の事ありしに
と定ししはるる守りたるの事うらむるに
犬を殺しし事ありしに
と傳ふ事ありしに
人々の事ありしに

○再び山神の祀

神代石の事ありしに
貞丈氏の事ありしに
緊要の事ありしに

神代石現在の事ありしに

神代石の事ありしに

個々の現在する神代石の大遺跡
ありしに

筑前系島郡雷山

筑前系島郡麻毛馬

筑前系島郡山

筑前系島郡山

四箇所の事ありしに
追う事ありしに
傳ふ事ありしに
氏の事ありしに
蹟と思はるる事ありしに

完全なるものも高嶺山のうき嶺の石のうき
 石の寸法即ち二尺或する三尺を以て二個
 とすれぬものと並べしもの同じやうなるを
 ぬきしものもあつし此等なると二石を以て一石の代
 りとすししなるものもあつし又自れ石の
 不規則なるものもあつし之を其まゝ利用し其上部
 を切りくばぬの前面をまじり之と並べたるものと
 同くすき二尺或する三尺の寸法と連続を保しぬ
 場もあつし其高嶺の二尺のうき石の寸法即ち
 二尺或する三尺の寸法を用ひたる場をいふ
 「」此の上部を切りくばるるものも角も前面の
 うきと並べぬものと同一にして其面の連続を

併しぬきしものもあつし其高嶺山のうき嶺の石のうき
 石の寸法即ち二尺或する三尺を以て二個
 とすれぬものと並べしもの同じやうなるを
 ぬきしものもあつし此等なると二石を以て一石の代
 りとすししなるものもあつし又自れ石の
 不規則なるものもあつし之を其まゝ利用し其上部
 を切りくばるるものも角も前面の
 うきと並べぬものと同一にして其面の連続を

を切して上方のものを下部に於て石の
 高さと同じく作るとして其の間に石を
 彫琢を施す其の間に隙を以てしその
 も角も其の石を並べたる目的とす
 其の表面を二列の石を並べたる
 ありけり上部に切欠きのある石を
 二個並べたるものありけり
 此の間に隙を以てし其の間に石を
 彫琢を施す其の間に隙を以てし

十一(山形屋敷)

石の増設したるものありけり
 字像文ある所の伝

二 七山の遺蹟、鬼の窟と云ふ(或る云ふに古蹟
 多けん其窟を呼ひし名は跡ありと云
 へに或るありん)……口碑

三 麻毛馬の遺蹟、此の遺蹟六皇東征の時、こ
 の遺蹟を設けたる、其の遺蹟の圍ひ石の
 ありけり(此の遺蹟、此地の遺蹟、
 刻を以てし其の間に隙を以てし其の
 間に石を並べたるものありけり)……
 口碑

四 雷山の遺蹟ハ怡土城の築壘云々(北後云々)
代の城の性多々を云々(他の諸例を云々)
云々(漢解云々)

五 雷山の烽火人を云々(烽火甚い云々)
云々(北後云々)防人を山
上り云々(北後云々)

六 高倉山の遺蹟云々(南七或云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)

山形屋製

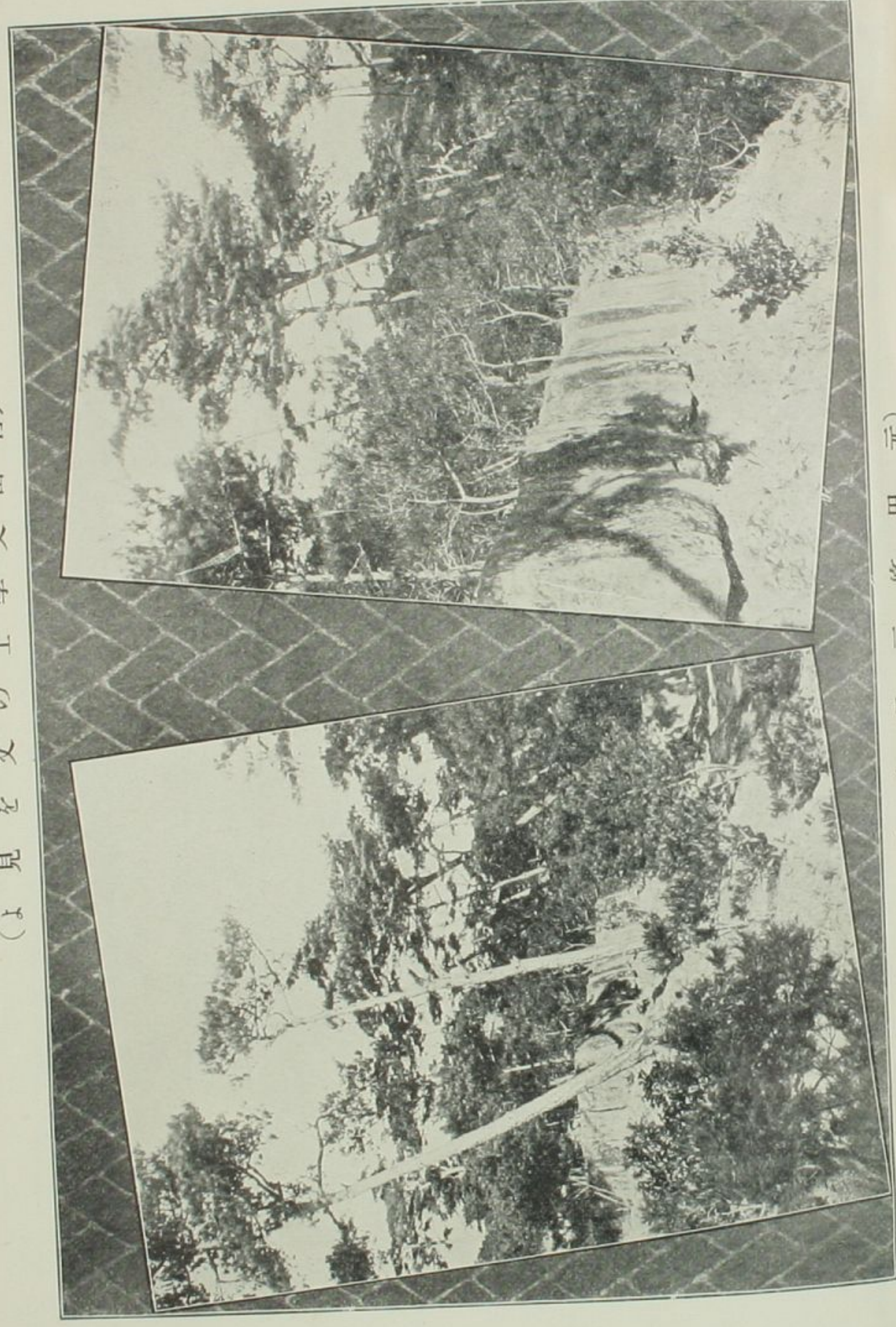
七 高倉山の遺蹟云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)

八 雷山の遺蹟云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)

九 伊弉縣主の塚を原田氏云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)

十 古史を案する云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)
云々(北後云々)又云々(北後云々)

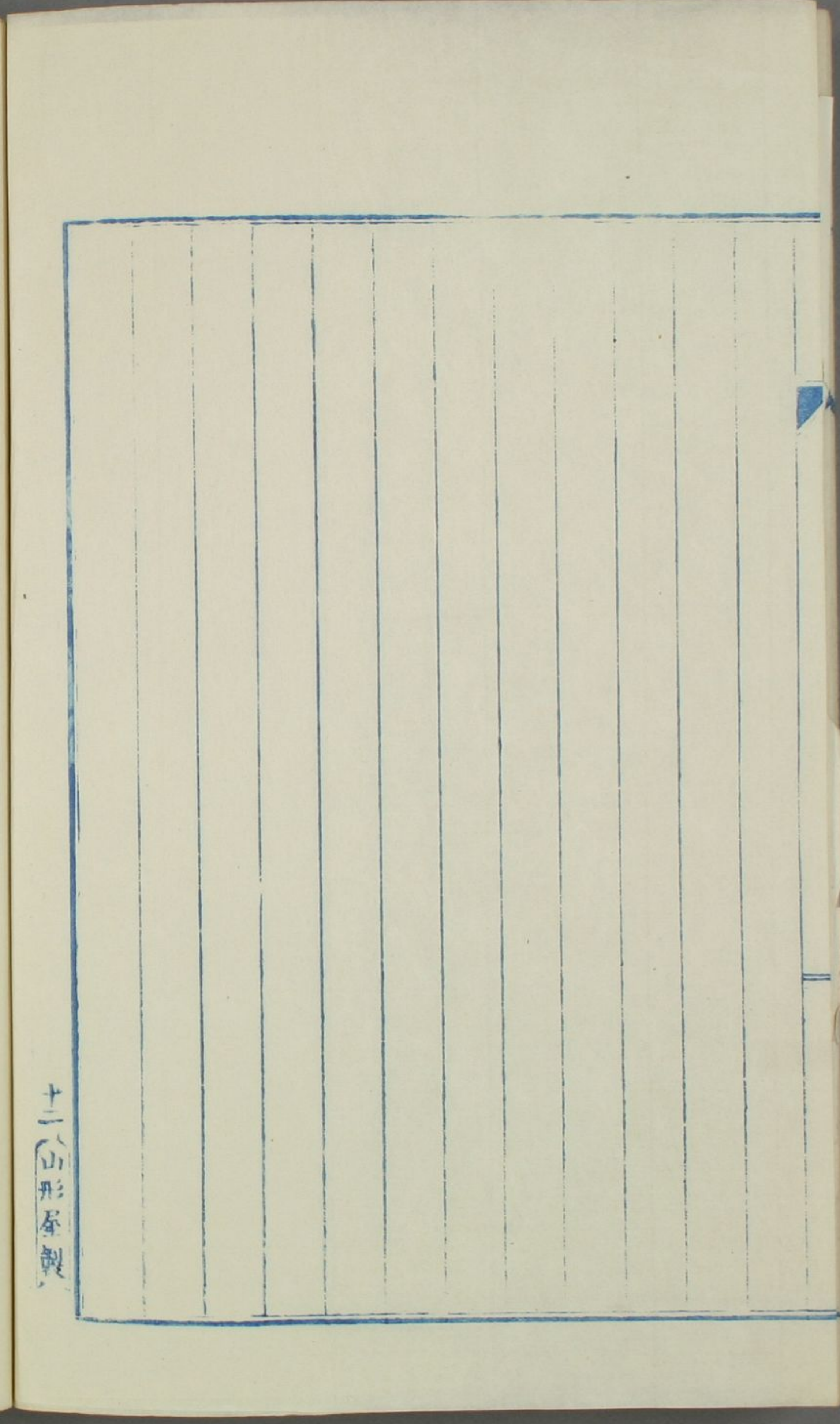
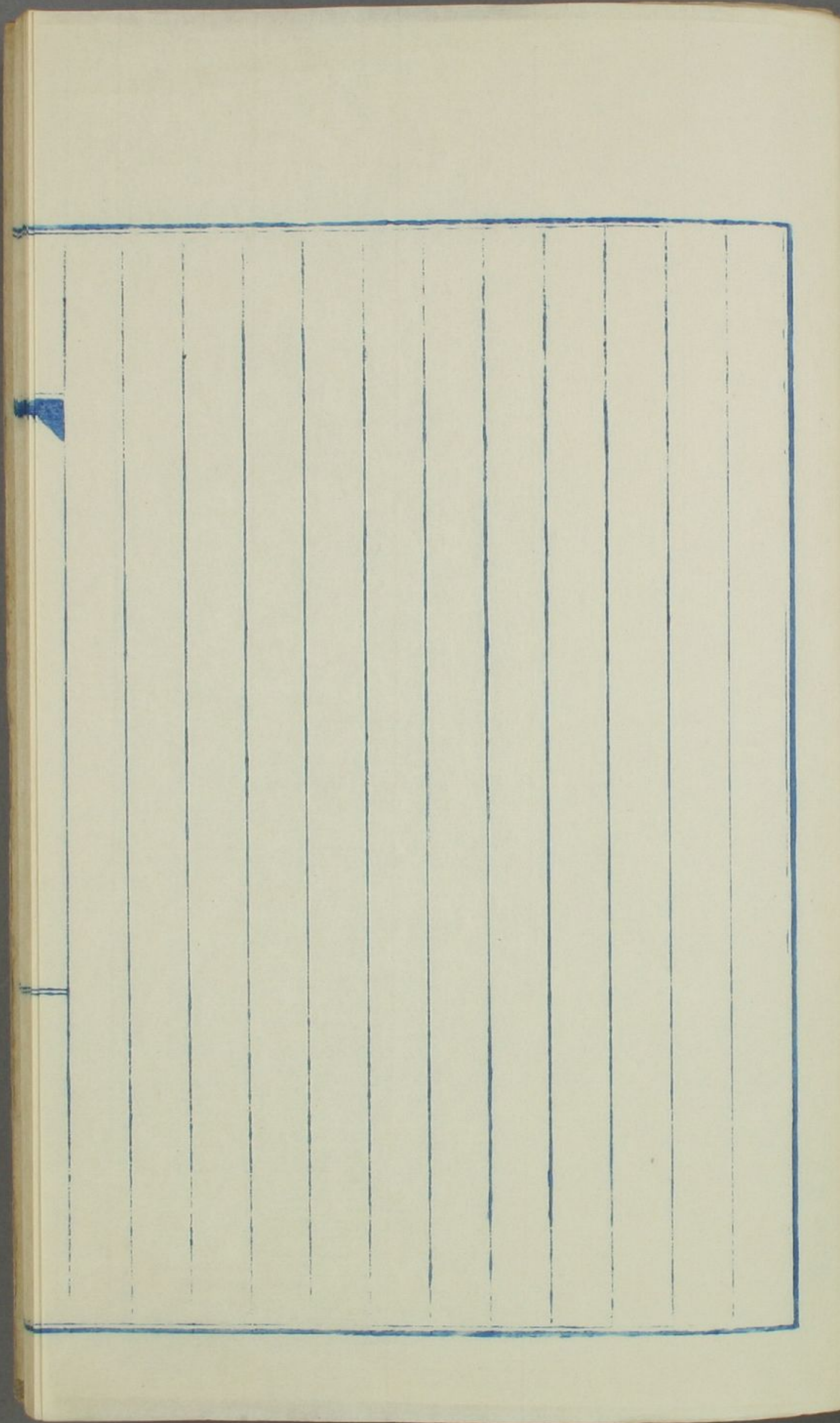
石籠神文山良高國後筑
 (よ見を文の士學文田喜)



(贈寄君三修田元)

之を休とほふし之を表彰せしう大三輪の場をうと
 瑞籬を及つて之をまきあふとあるに瑞籬のあかき之を
 詳とせんと兼遺蹟のなかりん見ふべきことのあききを
 思へば蓋木を道のよりうらうししてん而してん
 木をまきつてもし一柱の籬をせし雲にを圍はんと
 のあききと大和をたそふ之ありしとあるに思ふに
 こと例を休とたそふもみかたをせしとん果してん
 とは九州北部のよかみりある其のたかきをうと休を
 木をまきの瑞籬を休とせしを石を以てしとん
 石籠もみし七懐あるとそふへしとん

之を体と区別し之を表彰せしむ大三輪の場をくし
瑞籬を及つて之をまきおしとあり瑞籬のありき之を
祥とせんと兼遺蹟のありき見ふべきものありきを
思へば蓋木道のいふところしるしん而してさき
木をふりしは一粒の籬を以て室比を圍はんと
のありき大和の松を以てしるしん



十二山形屋製

以下全て
白紙

